

## 鳥取県立鳥取中央育英高等学校 公民科研究授業レポート

現代社会の仕組みについて、経済主体と経済の循環、企業の活動と社会的責任、市場経済と機能の限界、国民所得と経済成長、物価と国民生活、金融および財政の仕組みと機能について理解すること、経済主体の一つである家庭・個人が社会との関係性を考えながら主体的にどう生きるのかについて考えることを目的とした授業が実施されました。

### 1 時間目 2024 年 10 月 17 日 (木) 9:50~10:35

1 時間目のねらいは、「経済主体のうち特に企業が行う経済活動に対して、影響を与える要因について考察する」です。

先生から、本時の授業内容「ライフプランに影響を与える今の経済状況は？～企業の倒産件数から考えてみる～」が伝えられました。

はじめに、全国の企業倒産件数を調べることから始めました。

2024 年 1～8 月の倒産件数は 6,607 件（前年同期 5,560 件）で、18.8%<sup>\*1</sup>増加していることが分かりました。

ここで、今の経済状況はどのようになっているか、例えば、為替レートや物価など、企業経営に影響している項目と、なぜそれらのことが企業経営に影響するのか班で考え、プリントに記入するよう指示がありました。

1 班：輸出する企業にとっては、円安だと商品が多く売れるので儲けが増える

2 班：原材料を輸入に頼っている企業は、円安だと原価が上がってしまい利益が減る

先生からは、円安は輸出企業にとってはメリットがあるが、輸入企業にとっては仕入れコスト上昇分を販売・受注価格に転嫁できず収益が悪化するという説明がありました。

続けて、円安以外に日々の生活の中で感じる経済の変化を確認しました。

生徒からは「物価が高い」という声が上がりました。物価高になると、物価高に対応するための賃金の上昇が企業経営を圧迫し、企業の倒産につながる場合があります。物価が上昇すれば賃金が上がり、人々の購買力が向上し景気もよくなるという考え方もある一方で、物価高の原因がコスト・プッシュ・インフレ（原材料費などコストの上昇が原因で発生するインフレ）の場合は、企業収益が悪化し、賃金にも悪影響が生じること、仮に賃金が増え、価格上昇分に追いついていなければ家計の購買力も上がらず、企業業績は下回ることもあります。業種によって違いはあるものの、賃金を上げなければ求人不足への対応は難しく、特に中小企業にとっては厳しい状況であることを確認しました。併せて、都道府県別最低賃金が 2024 年 10 月から適用され、鳥取県の最低賃金が 1 時間あたり 957 円に改正されたことも確認しました。

次に、コロナ禍とその後では何が変わったか、コロナ禍の企業に対する支援策について確認しました。

コロナ禍（2022 年 1～8 月）の企業倒産件数は 4,046 件。はじめに確認した今年度の企業倒産件数と比較すると、今年度の方が倒産件数が多いことが分かりました。この差は何なのか、どのような支援策があったのか班ごとに調べてみました。

・政府系金融機関による資金繰り支援：無利子・無担保の融資

・税金の猶予：国税、社会保険料の 1 年間の猶予

コロナ禍で企業に対するさまざまな支援策があったものの、返済義務や猶予期間が限定されていたこと、コロナ禍が終わり融資に対する返済や国税、社会保険料の支払いが始まり、企業を取り巻く経済環境の悪化も加わることで、今年度の方が企業倒産件数が多いことが分かりました。

ここで、銀行の役割について改めて教科書 p107 で確認しました。

銀行は、預金金利より貸出金利を高くすることで利潤を得ており、貸出に際しては返済可能な企業かど

うか審査を行っています。中小企業の経営が厳しければ、銀行の審査はさらに厳しくなることが予想されます。また日本銀行は現在、金利を引き上げる傾向にあり市中銀行も貸出金利を見直す（引き上げる）動きがあることを確認しました。

#### まとめ

- ・倒産件数増加の理由：円安、物価高、人件費高騰  
コロナ禍で行われた支援策の終了による企業の資金繰りの悪化  
※今年の傾向「税金滞納」倒産が前年同期 127.7%増の 123 件※<sup>2</sup>
- ・昨今の経済状況の原因：燃料費、輸入資材・原料の高騰（産油国周辺の紛争や国際関係の変化などの影響が考えられる）

ここまでの学習内容を踏まえ、自分のライフプランを考える際のポイントをワークシートにまとめました。

#### 【生徒の考え（抜粋）】

- ・ 今後も物の値段は上昇すると思うので、節約して生活することが大切だと思う。
- ・ 国の制度を正しく理解しておく必要がある。

先生からは、社会情勢をはじめとする自分を取りまく状況は変化していくものであることを理解したうえで、ライフプランを検討する必要性が伝えられました。

次時は、「生活設計・マネープランゲーム」活動であることが伝えられ、授業が終了しました。

※1 東京商工リサーチ 全国企業倒産状況 <https://www.tsr-net.co.jp/news/status/index.html>（2024年1月～8月を集計）

※2 東京商工リサーチ 『1-8月「税金滞納（社会保険料含む）」倒産が123件に 新たな再生支援への取り組みには、金融支援がカギ（2024/09/05）』

[https://www.tsr-net.co.jp/data/detail/1198896\\_1527.html](https://www.tsr-net.co.jp/data/detail/1198896_1527.html)

#### 【授業の様子】



## 2時間目 2024年10月18日(金) 14:00~14:45/14:55~15:40

2、3時間目のねらいは、「生活設計・マネープランゲーム（人生の疑似体験）を行い、その結果から実際の人生に何が必要なのか考える」です。

先生から「生活設計・マネープランゲーム」を進めていく際には、「収入と支出のバランスに気をつけること」、「思い出ポイントにも目を向けること」が伝えられました。

4人1班になり係（班長、記録・計算係、思い出係・カード係）を決め、20歳代からゲームが始まります。

就職をして自立した生活を始める20歳代は、収入カードを引いて収入額を決めた後、税金や社会保険料など非消費支出について資料集p2で確認しマネープランシートに記入しました。

次に、どのような生活をしていくかを定める基本生活支出カードを引き収支を計算しましたが、この時点で収支はマイナスでした。

その後、自動車の購入を決め、20歳代の収支と思い出ポイントを計算しました。計算を進めながら20歳代の結果を踏まえ、30歳代以降の生活について話し合う様子も見られました。

続いて30歳代は、さまざまなライフイベント（結婚・子育て・住居の購入・自動車の購入・保険の選択・イベント&アクシデント）を経験しながら、それらに必要なお金について学んでいきます。

まず、ライフイベントにかかる費用について進行スライドで確認しました。住宅資金、教育資金、老後資金、結婚資金の平均金額を確認した後、結婚カード、子育てカードを引き家族構成を決めました。非消費支出は、収入だけでなく家族構成によっても変わることを確認しました。

家族構成が決まったら、住居の購入について考えます。進行スライドでローンの仕組みについて確認しました。先生が自身の住宅購入時の支払い方法について説明した場面では、生徒たちは興味を持って説明を聞く様子が見られました。

ここまでの貯蓄額を確認したうえで、家族構成や今後の生活も考えながら、住居を購入するか賃貸にするか話し合っ決めていきます。この時点で貯蓄額がマイナスだったため、住居は賃貸となりました。

その後、自動車の購入、保険の加入について決めた後、イベント&アクシデントカードを引きました。子育て世代への臨時給付金が支給され、イベント収入となりました。

30歳代までの収支と思い出ポイントを計算し、貯蓄額がマイナス1,130万円、思い出ポイントが10ポイントとなりました。

次時はここまでの人生を振り返り、これからの生活をどのように組み立てていけばよいのかを考え、「まねらん」の結果共有をした後、40歳代~60歳の人生の疑似体験をすることが伝えられ、授業は終了しました。

### 【授業の様子】



### 3 時間目 2024 年 10 月 18 日 (金) 14:55~15:40

3 時間目は、2 時間目に引き続き、「生活設計・マネープランゲーム」を活用した 40 歳代~60 歳までの人生の疑似体験をしていきました。

はじめに、20 歳代~30 歳代までの人生と、それを踏まえて 40 歳代以降の生活設計を考え、ワークシートに記入しました。貯蓄額が大幅にマイナスだった結果を踏まえ、「支出を減らして生活を立て直す」などの記入がありました。

ここで、今回の授業に向けて体験を進めてきた「まねらん」の確認をしました。

先生の結果は、総資産 1,030,910 円、保有株（業種）は自動車、航空会社、化学です。現在の経済状況下でも株価の上昇が見込めると考えこれらの株を購入したものの、3 銘柄ともマイナス傾向でしたが、IPO（新規公開株式）で購入した旅客鉄道の株価がプラスとなり、総資産もプラスとなっていました。

続いて、それぞれの結果も確認しました。

#### 【生徒結果（抜粋）】

- ・ 総資産：1,355,625 円 保有株：小売
- ・ 総資産：1,258,000 円 保有株：情報通信
- ・ 総資産：1,333,365 円 保有株：海運 2 社、情報通信

資産形成のひとつの方法として「投資」があることを確認し、40 歳代の人生の疑似体験に進みました。

40 歳代は「人生の見直し」から始まります。転職するかどうか、基本生活支出を見直すかどうかを話し合っただけで、景気によって収入が変動することを体験します。働き方には会社に勤める勤め人のほか、組織に属さず自分の才能や能力で仕事をしてお金を稼ぐフリーランス、自分で事業を起こす起業があることを確認し、基本生活支出は変えずにフリーランスに転職をしました。

その後、先生が景気動向を決める業績カードを引きました。結果は「不況に陥る」で、フリーランスは年収が 0.8 倍になりました。前時の授業で確認したように、円安や物価高騰など経済状況により業績が変動することが先生から伝えられました。

40 歳代の年収に応じた非消費支出を記入した後、自動車の購入を選択し、その他の支出額を引いて貯蓄額を計算しました。

続いて、保険の加入を検討し、イベント&アクシデントカードを引きます。今回も保険加入を選択しました。イベント&アクシデントカードは「寄付をする」で、イベント支出が 100 万円になりました。

50 歳代の人生も、業績カードで景気動向が決まります。今度は「仕事が絶好調」で年収が 2 倍になりました。自動車の購入、保険の加入を検討した後、イベント&アクシデントカードを引きました。「自宅が火事」に見舞われましたが、保険加入によりアクシデント支出は 0 円で済みました。50 歳代になると子育てが終了し、支出が少なくなるため、30、40 歳代よりも貯蓄ができるようになってきました。

60 歳を迎えたところで、貯蓄額と思い出ポイントの計算をしました。フリーランスに転職したため、退職金はありません。貯蓄額が 7,020 万円、思い出ポイントが 34 という結果になりました。

人生の疑似体験を振り返り、

- ・ 収入と支出、思い出ポイントのバランスがとれていたか
- ・ 「生活設計」と「マネープラン」について分かったこと
- ・ ゲーム体験で分かったことを、普段の生活にどのように生かしていけばよいか

について、班で話し合いまとめるよう指示がありました。

### 【生徒の感想】

- 収入と支出、思い出ポイントのバランスは年代ごとでさまざまだったが、結果としては理想的だった。
- 人生には予期せぬ出来事が起こることもあるので、保険加入の必要性を感じた。子育てをしながら自分のやりたいことをするのは大変だと分かった。

次時は、改めて「まねらん」の結果を踏まえて投資や資産形成について学ぶことが伝えられ授業は終了しました。

### 【授業の様子】



#### 4 時間目 2024 年 10 月 18 日（金） 14:55～15:40

4 時間目のねらいは、「投資について考えよう」です。

「生活設計・マネープランゲーム」と「まねらん」の結果を踏まえ、人生における資産形成（投資）について考えることが伝えられました。

はじめに、「お金の増やし方（金融商品）」について確認しました。

種類	概要・特徴
預貯金	銀行等にお金を預けること 元本が保証される（各金融機関で元本 1,000 万円までとその利息）
債券	国や会社にお金を貸すこと 定期的に利子が支払われ、満期がくると額面金額を受け取ることができる 国が発行するものを「国債」、会社が発行するものを「社債」という 発行した会社が倒産すると、返済されない可能性がある
株式	株式会社の株を購入し資金を出資すること 会社が上げた利益に応じて配当などを受け取ることができる 会社の業績や、国内外の景気などにより、株式の価値（株価）も変動する
投資信託	多くの人から集めたお金を 1 つにまとめ、大きな資金にして投資する仕組み 株価の変動などによって、価格が日々変動する 少ない金額から購入できたり、分散投資もしやすい

続けて、それぞれの金融商品のリスクとリターンについて、教科書 p112 の図で確認しました。リスクは、投資したお金が増えたり減ったりする可能性の幅のこと、リターンは、投資したお金が増えたり減ったりする結果のことです。

金融商品の特徴を理解したところで、自分なりの投資のスタイルを考えます。

自由に使うことができる 100 万円を、4 種類の金融商品（預貯金、債券、株式、投資信託）に投資します。何にどれだけ投資するかとその理由を考え、ワークシートに記入しました。

預貯金以外の金融商品について具体的なイメージが持ちにくかったためか、生徒たちはお金の配分に時間を要していました。

先生は、金利は低い元本割れしない預貯金を最も多くし 40 万円、配当と株式優待を見込んで株式に 30 万円、安全性が高く元本割れのリスクが低い国債に 20 万円、お試しとして投資信託に 10 万円投資すると説明がありました。

続けて、投資に関する詐欺被害について確認しました。

警視庁ウェブサイトの警視庁・SOS47 特殊詐欺対策ページ※には、「SNS 型投資・ロマンス詐欺」が最新の詐欺として記載されています。SNS を悪用した投資詐欺被害が全国的に急増していること、詐欺の手口が非常に巧妙で、1 件当たりの被害額が 1,000 万円を超えるなど、被害が高額になる場合が多いことが分かりました。被害者は男女共に 50～60 歳代が半数を超えており、接触・連絡ツールは、男性は LINE、女性はインスタグラムが最も多いことが分かりました。自分たちの身近にあるツールで詐欺被害が発生していることに生徒たちは驚いていました。

投資詐欺に遭わないために、どのようなことに気をつけたらよいかを考えワークシートに記入した後、警視庁・SOS47 特殊詐欺対策ページ※で詐欺被害に遭わないために気をつけるべきポイントを確認しました。

### 【気を付けるべきポイント】

- 投資先が実在しているか・国の登録業者かどうか
- 「必ずもうかる」「あなただけ」といった文言に注意
- 投資を勧めている「著名人」がなりすましでないか
- 投資に関する「暗号資産」や「投資アプリ」等が実在するか
- 振込先の口座に不審な点がないか

最後に、4時間授業を振り返り、改めてポイントを確認しました。

- 金融に関する知識や情報を正しく理解し、主体的に判断すること
- 生活設計や家計管理、金融・経済についての基本的な知識を身につけること
- 投資先の企業について、社会的責任を果たしているかどうか確認し理解すること  
(企業のHPなどをチェックし、SDGs や社会的課題の解決に寄与しているかなどを確認)  
→ ESG 投資につながる

投資は、社会全体の「経済成長を支える」という役割を担っていること、自分の資産を増やすためだけでなく、政府や企業の活動資金となり、その結果、より暮らしやすい環境や、より質の高い商品やサービスが提供されるなど、持続可能な社会の形成に不可欠なものとなっていることが伝えられました。

企業の経済活動に影響を与える要因（円安、物価や人件費の高騰、戦争など）や、資産運用の方法のひとつである投資の仕組みと社会の中における役割を理解し、「生活設計・マネープランゲーム」での疑似体験を踏まえ、これからの人生設計をどのようにしていけばよいのか、自分ごととして考えるきっかけとなった4時間授業となりました。

※ 警視庁・SOS47 特殊詐欺対策ページ <https://www.npa.go.jp/bureau/safetylife/sos47/>

### 【授業の様子】

